

証券コード6859

エスペック株式会社  
2023年度(2024年3月期)  
第2四半期決算説明

2023年11月22日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

ESPEC CORP.

代表取締役 執行役員社長の荒田でございます。  
それでは、決算概要についてご説明いたします。

# 2023年度第2四半期 決算概要

受注高は、特にEV・バッテリー向けがけん引  
部材確保・生産対応強化により大幅に増収増益、過去最高を更新  
第2四半期および通期の業績予想を上方修正

	前年同期比	期初予想比
■受注高	○ 装置事業は高水準維持、サービス事業(主に受託試験)が増加	○ 装置事業(環境試験器、エネルギーデバイス装置)、サービス事業が上回る
■売上高	○ すべての事業が増加、特に装置事業が大幅増	○ 装置事業、サービス事業が上回る
■営業利益	○ 販管費は増加したが増収により大幅増	○ 売上高の上振れ、環境試験器・受託試験の原価率改善により上回る
■経常利益 親会社株主に帰属する四半期純利益	○ 営業利益の増加により大幅増	○ 営業利益の増加により上回る

■ 配当は期初予想より修正なし(中間25円、期末45円、年間70円)

ESPEC CORP.

1

2023年度第2四半期の決算総括といたしましては、  
受注高は、特にEV・バッテリー向け投資がけん引し、過去最高となりました。  
また、部材確保および生産対応の強化により大幅に増収増益となり、  
過去最高を更新いたしました。  
なお、10月27日に第2四半期および通期業績予想を上方修正いたしました。

前年同期比では、受注高は装置事業は前年同期並みと高水準を維持し、  
サービス事業は主に受託試験が増加しました。売上高はすべての事業が  
増加しましたが、特に装置事業の環境試験器が増加いたしました。  
エリアでは主に日本、北米、欧州が増加しました。営業利益につきましては、  
販管費は増加しましたが、増収により大幅に増益となっております。

期初予想に対しては、受注高は特に環境試験器、エネルギーデバイス装置が  
想定を大幅に上回り、売上高も増加することができました。  
営業利益につきましては、販管費は増加しましたが、売上高の上振れに加え、  
環境試験器・受託試験の原価率改善により上回りました。

配当につきましては、中間25円、期末45円の年間70円を予定しており、  
期初予想から変更しておりません。

## 損益の状況

	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	(百万円) 期初予想比
受注高	33,266	26,500	33,440	+0.5%	+26.2%
売上高	22,945	26,000	27,257	+18.8%	+4.8%
売上原価 原価率	15,150 66.0%	17,250 66.3%	17,771 65.2%	+17.3% 0.8pt改善	+3.0% 1.1pt改善
売上総利益	7,794	8,750	9,485	+21.7%	+8.4%
販管費	6,399	6,900	7,151	+11.8%	+3.6%
営業利益	1,395	1,850	2,333	+67.2%	+26.2%
経常利益	1,731	1,950	2,526	+45.9%	+29.6%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	984	1,300	1,653	+68.1%	+27.2%

こちらが損益の状況です。

前年同期比では受注高は前年同期をわずかに上回り、売上高は18.8%増加しました。

原価率については0.8ポイント改善し、営業利益は主に増収効果により67.2%増加しました。

期初予想に対しては、受注高は大幅に増加し、売上高も上回ることができました。原価率については1.1ポイントの改善となっており、販管費が予想よりも増加しましたが、営業利益はプラス26.2%と、期初予想を達成することができました。

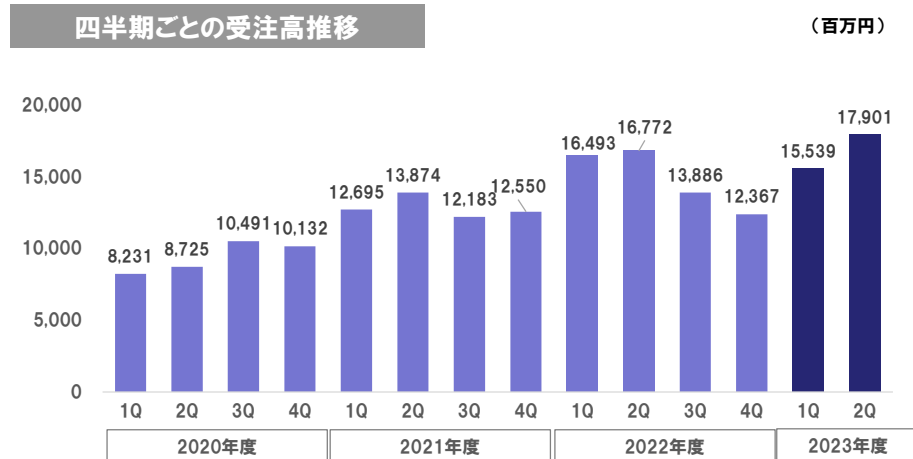
## セグメント別の損益の状況

		(百万円)				
		2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計 期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
装置事業	受注高	29,209	22,550	29,198	△0.0%	+29.5%
	売上高	19,650	22,450	23,533	+19.8%	+4.8%
	営業利益	1,403	1,870	2,175	+55.0%	+16.3%
サービス事業	受注高	3,470	3,350	3,785	+9.1%	+13.0%
	売上高	3,020	3,150	3,445	+14.1%	+9.4%
	営業利益	72	30	249	+244.7%	+730.4%
その他事業	受注高	747	750	655	△12.3%	△12.5%
	売上高	405	550	475	+17.5%	△13.5%
	営業利益	△80	△50	△88	-	-
連結消去	受注高	△161	△150	△199	-	-
	売上高	△130	△150	△197	-	-
	営業利益	△0	0	△2	-	-
計	受注高	33,266	26,500	33,440	+0.5%	+26.2%
	売上高	22,945	26,000	27,257	+18.8%	+4.8%
	営業利益	1,395	1,850	2,333	+67.2%	+26.2%

セグメント別の実績については、ご覧の通りです。

## 2023年度上期実績・受注高について

- 受注高は前年同期比で減少予想だったが、国内のEV・バッテリー向け投資がけん引(環境試験器・エナジーデバイス装置・受託試験)  
上期受注高は、3期連続で過去最高を更新



2023年度上期業績について、もう少し詳しくご説明いたします。

受注高については、期初予想では前期の前倒し受注や為替影響の剥落をふまえ、前年同期比で減少すると見ておりましたが、予想を大きく上回り3期連続で過去最高を更新いたしました。

これは、主に国内のEV・バッテリー向け投資がけん引し、環境試験器、エナジーデバイス装置、受託試験が想定以上に増加したためです。

一方、特殊な要因としまして、9月にエスペック製品の2度目となる価格改定を行いました。その直前に、かけこみ受注が約15億円ございました。

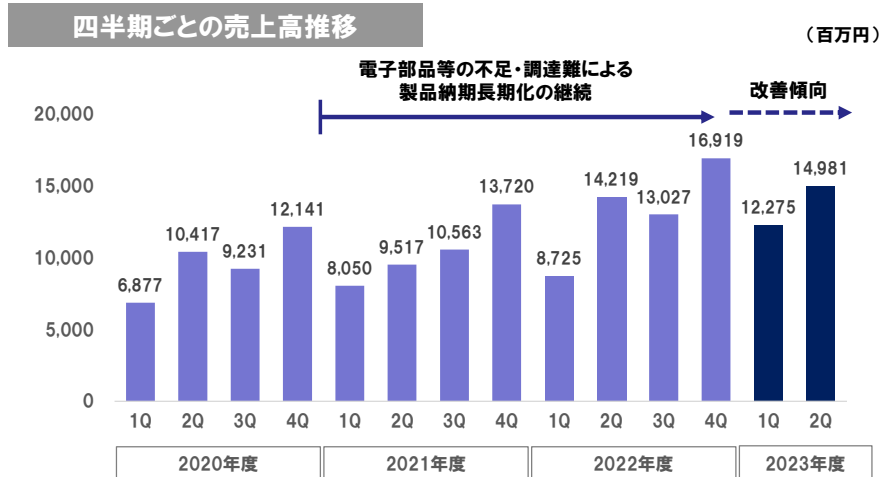
また、為替変動によるプラスの影響が、約4億円ありました。

その他、当社子会社のコスモピアハイテック株式会社が日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社の環境試験装置事業を9月30日に、譲受したことによる影響もございます。

以上のような特殊要因もございましたが、四半期で150億円を超える高水準となりました。

## 2023年度上期実績・売上高について

- 売上高は、部品の長納期は継続しているが部材確保・生産対応強化により2023年3月末受注残の消化、製品リードタイムの改善が進展  
上期売上高は、2期連続で過去最高を更新



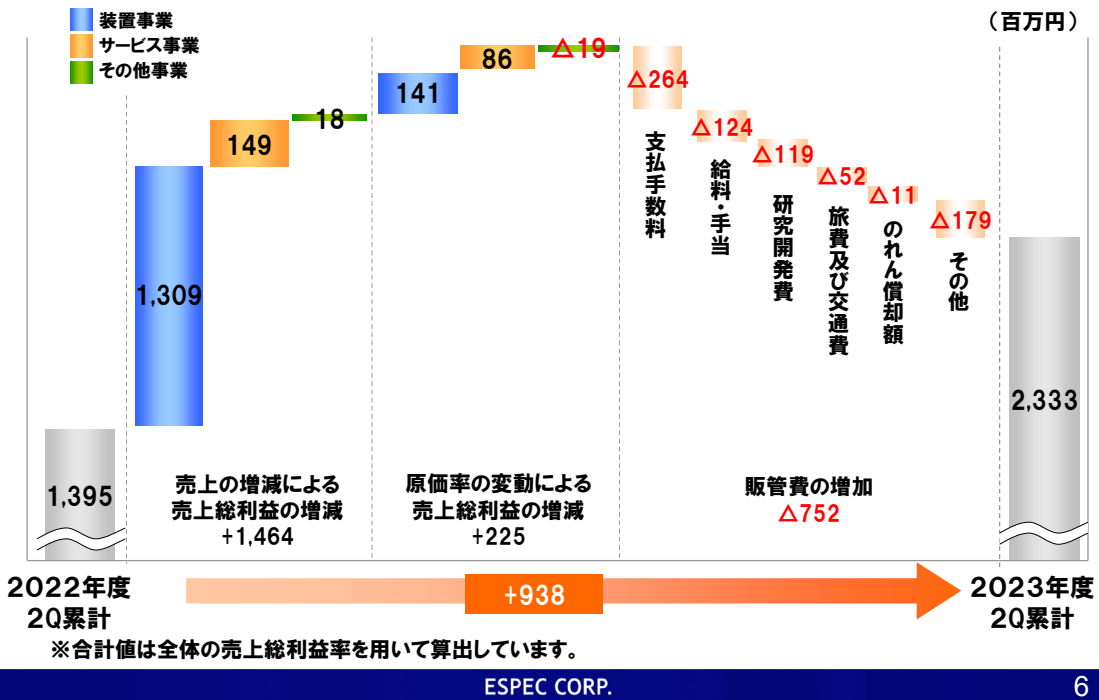
次に、売上高についてです。

部品の長納期は継続していますが、部材確保・生産対応を強化し、2023年3月末受注残の消化は計画通りに進んでおります。

製品リードタイムにつきましては、特に標準製品の改善が進み、上期売上高は2期連続で過去最高となりました。

# 上期営業利益の増減要因分析

■ 販管費は増加したが、主に装置事業の増収効果により約9億円増加



こちらは、営業利益の増減要因分析です。

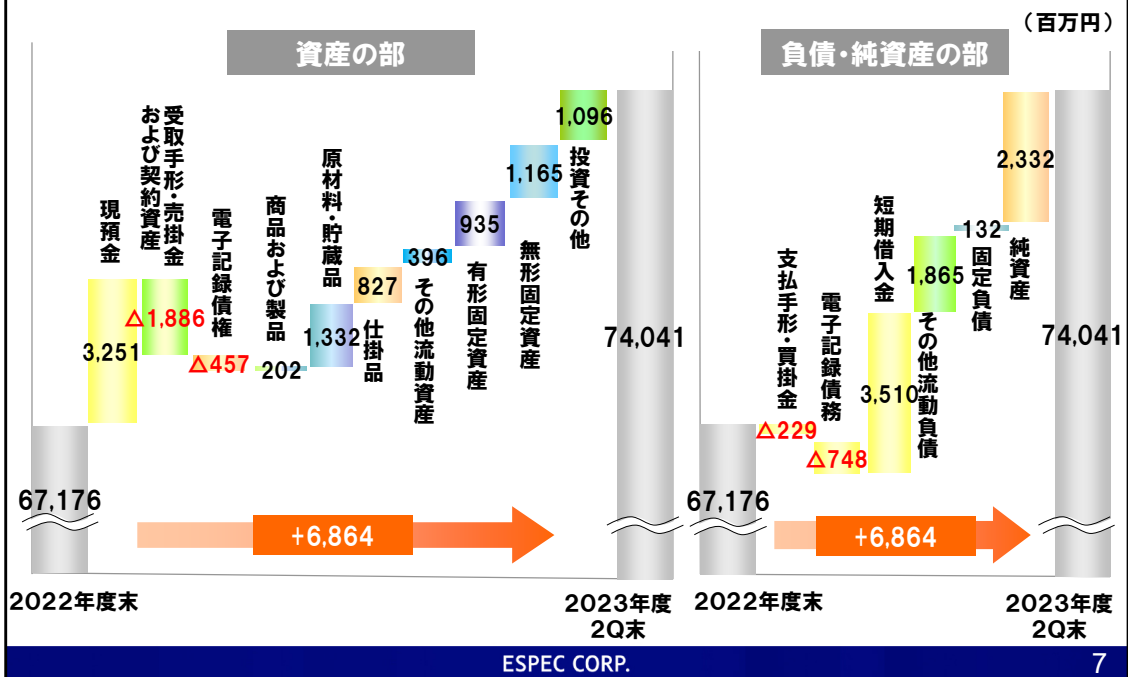
ご覧の通り、販管費は増加したものの、主に装置事業の増収効果により前年同期比で約9億円増加いたしました。

原価率の改善につきましては、装置事業は主に北米子会社、サービス事業は受託試験における電気料金の低下およびサービス価格見直しによるものです。

昨年10月に実施したエスペック製品の値上げ効果につきましては、上期時点の利益貢献は軽微でした。

# 資産・負債の状況

■ 主に短期借入による現預金の増加、有形・無形固定資産の増加により、資産は約68億円増加

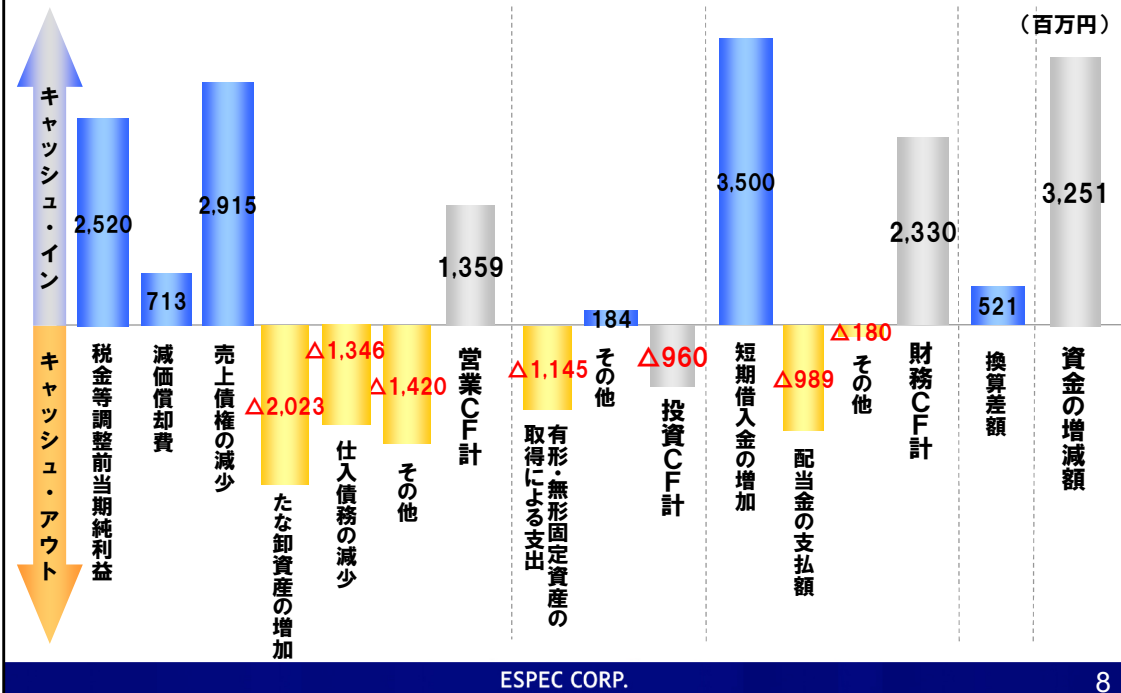


次に資産・負債の状況ですが、短期借入金35億円の計上による現預金の増加や、受託試験所の拡充、事業譲受によるのれんの計上などにより、有形・無形固定資産が増加し、資産は約68億円増加いたしました。



# キャッシュフローの状況

■ 主に短期借入金により、資金は約32億円増加



キャッシュフローの状況につきましても、  
先ほどの通り主に短期借入金により資金は約32億円増加しております。

## 装置事業セグメント

	(百万円)				
	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	29,209	22,550	29,198	△0.0%	+29.5%
売上高	19,650	22,450	23,533	+19.8%	+4.8%
営業利益 利益率(%)	1,403 7.1%	1,870 8.3%	2,175 9.2%	+55.0%	+16.3%

### 環境試験器

- 国内では、受注高は前年同期比で汎用性の高い標準製品が減少したもののカスタム製品は自動車関連を中心に増加、売上高は標準製品・カスタム製品ともに増加
- 海外では、受注高は前年同期を下回ったものの売上高は増加  
主に北米、欧州が増加、韓国、台湾も増加、中国は前年同期並み

### エネルギーデバイス装置

- 受注高・売上高ともに前年同期比で大幅に増加  
電気自動車(EV)・二次電池向けの投資拡大により、主に国内で充放電試験用チャンバーが好調

### 半導体関連装置

- 主にメモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高は前年同期比で減少  
売上高は前年同期並み

次に、セグメント別分析についてご説明いたします。

装置事業セグメントにつきましては、主に国内向けの環境試験器・エネルギーデバイス装置が好調に推移し、期初予想に対して、受注高・売上高・営業利益、いずれも上回る事ができました。

エリア別の売上高につきましては、中国は前年同期並みとなりましたが、主に日本、北米、欧州が増加し、営業利益も増収により大幅に増加いたしました。

製品群ごとの状況はご覧の通りです。

## サービス事業セグメント

(百万円)

	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	3,470	3,350	3,785	+9.1%	+13.0%
売上高	3,020	3,150	3,445	+14.1%	+9.4%
営業利益 利益率 (%)	72 2.4%	30 1.0%	249 7.2%	+244.7%	+730.4%

### アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は増加

### 受託試験・レンタル

- 車載用バッテリーを中心に受託試験が好調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

次にサービス事業ですが、前年同期比では、受注高は主に受託試験が車載用バッテリーを中心に好調に推移し、増加いたしました。

売上高は、受託試験に加え、アフターサービスにおいて部品確保が進んだことにより増加いたしました。

営業利益につきましては、主に受託試験における原価率の改善により、大幅に増加することができました。

期初予想比、またサービス群ごとの状況につきましてはご覧の通りです。

## その他事業セグメント

(百万円)

	2022年度 2Q累計実績	2023年度 2Q累計期初予想	2023年度 2Q累計実績	前年同期比	期初予想比
受注高	747	750	655	△12.3%	△12.5%
売上高	405	550	475	+17.5%	△13.5%
営業利益 利益率(%)	△80 △19.8%	△50 △9.1%	△88 △18.6%	-	-

### 環境保全・植物育成装置

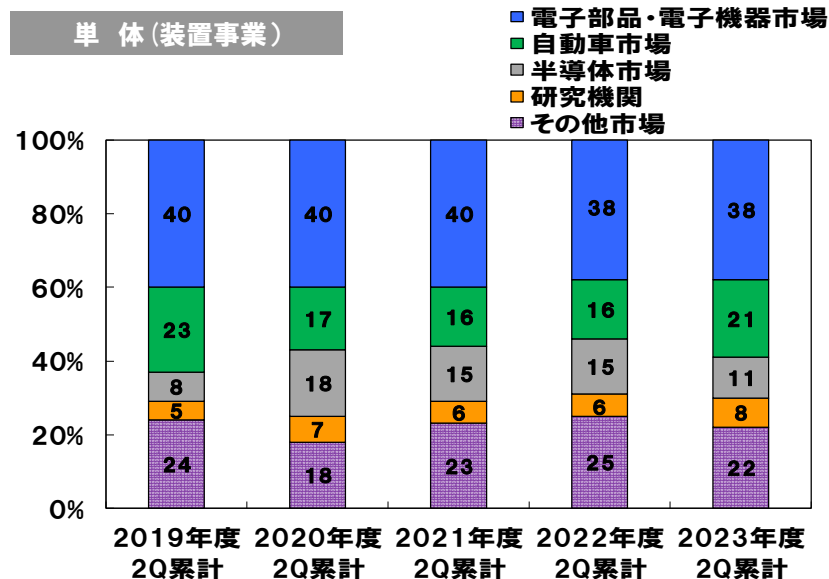
- 森づくりや植物研究用装置が低調となり、受注高は前年同期比で減少、新たに手掛けている植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスの納入などにより売上高は増加

環境保全事業や植物育成装置を手掛けるその他事業については、  
ご覧の通りでございます。

植物の水耕栽培と陸上養殖を組み合わせたアクアポニックスといった  
新しい需要が出てきてはいますが、その他事業全体としては大型案件が少なく、  
収益面は厳しい状況となっております。

## 市場別売上構成比

■ 売上高は、電子部品・機器市場は1.2倍、自動車はEV・バッテリーを中心に大幅に増加し1.6倍、半導体市場は減少



ESPEC CORP.

12

こちらはエスペック単体の市場別売上構成比です。

まず、当社事業の中心的市场であるブルーの電子部品・電子機器市場は、5G・IoTなど先端技術分野はやや一服感があり、受注高は微減となりましたが、売上高は約1.2倍となり、比率は38%でした。

グリーンの自動車市場は、EV・バッテリーを中心に受注が拡大し、売上高は約1.6倍、比率は21%となり、5ポイント上昇しました。

グレーの半導体市場は、メモリ関連の投資抑制の影響を受け、受注高・売上高ともに減少し、比率は11%となり4ポイント下がりました。

オレンジの「研究機関」は民間や国公立の研究機関で、例年6~8%を占めています。

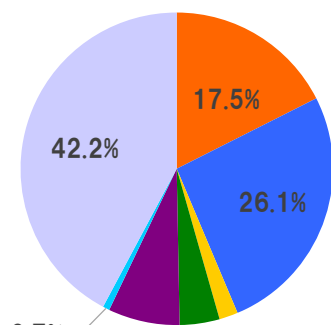
一番下の「その他市場」には、化学、建築材料、食品、化粧品などさまざまな業種が含まれており、例年20~25%を占めております。

## 地域別売上構成比

■ 売上高は主に日本、北米、欧州が増加、中国は前年同期並み

2022年度2Q累計

海外売上高比率: 57.8%

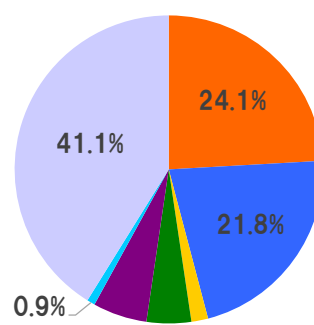


計 22,945百万円

(海外売上高: 13,268百万円)

2023年度2Q累計

海外売上高比率: 58.9%



計 27,257百万円

(海外売上高: 16,045百万円)

ESPEC CORP.

13

地域別の売上高についてですが、海外売上高比率は58.9%とさらに上昇しました。

地域別では、

北米においては、航空機関連の受注が堅調に推移し受注高は前年同期並み、売上高につきましては自動車やスマホ関連の一括案件があり増加、比率も上昇しました。

欧州は、受注高は減少していますが、自動車関連を中心に前期受注残の売上計上が進み、売上高は増加、比率も上昇しました。

中国は、半導体を中心に受注は減少したものの、自動車やバッテリー関連を中心に売上計上が進み、売上高は前年同期並み、比率としては減少いたしました。

東南アジアは、半導体、EV・バッテリー関連が堅調に推移し受注高は増加しましたが、売上高は減少し、比率は低下しました。

国内については受注高・売上高ともに増加していますが、比率としては低下しました。

# 2023年度 業績予想について

## ■ 通期業績予想のポイント

- ・受注は、上期の勢いは落ち着くと見るが高水準を維持すると認識
- ・カスタム製品の生産が下期に偏重見込み
- ・部材およびリソース確保に全力を挙げ、過去最高売上高・営業利益の更新を目指す

## ■ 想定為替レートの変更

	2021年度	2022年度		2023年度		
	通期実績	上期実績	通期実績	上期実績	通期期初想定	通期修正
USD(円)	112.40	134.04	135.51	141.06	130	145

2023年度為替感応度(対ドル1円円安):売上高185百万円増加、営業利益35百万円増加

## ■ 事業譲受

日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社の環境試験装置の製造、販売を連結子会社コスモピアハイテック株式会社が譲受

譲受価額:1,800百万円

譲受日 :2023年9月30日

続いて、2023年度の業績予想についてご説明いたします。

受注につきましては、上期の勢いは落ち着くと見ておりますが、高水準を維持すると考えております。

一方、カスタム製品の生産が下期に偏重する見通しであり、部材およびリソース確保に全力を挙げ、過去最高売上高・営業利益の更新を目指してまいります。

また、想定為替レートにつきましては、1ドル145円に見直しました。

なお、今期業績予想には、日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社の事業譲受の影響が含まれておりますが、事業立ち上げに時間を要すことから連結業績への影響は大きくありません。

## 2023年度 通期業績予想

(百万円)

	2022年度	2023年度	上期 実績	2023年度		
	通期 実績	通期 期初予想		業績予想(10/27修正)		
				下期	通期	前期比
受注高	59,521	54,000	33,440	27,559	61,000	+2.5%
売上高	52,892	56,000	27,257	31,243	58,500	+10.6%
売上総利益 利益率(%)	17,957 34.0%	19,000 33.9%	9,485 34.8%	11,015 35.3%	20,500 35.0%	+14.2% +1.0pt
販管費 販管費率(%)	13,590 25.7%	14,000 25.0%	7,151 26.2%	7,848 25.1%	15,000 25.6%	+10.4% △0.1pt
営業利益 利益率(%)	4,366 8.3%	5,000 8.9%	2,333 8.6%	3,166 10.1%	5,500 9.4%	+26.0% +1.1pt
経常利益 利益率(%)	4,664 8.8%	5,100 9.1%	2,526 9.3%	3,224 10.3%	5,750 9.8%	+23.3% +1.0pt
親会社株主に帰属する 当期純利益 利益率(%)	3,330 6.3%	3,650 6.5%	1,653 6.1%	2,346 7.5%	4,000 6.8%	+20.1% +0.5pt
1株当たり当期純利益(円)	150.34	167.18	75.76	107.45	183.21	+21.9%

※ROE(自己資本利益率) 2023年度目標 7.5%→8.1%に修正(前期比+0.9pt)

2023年度の業績予想はご覧の通りです。

受注高は、上期比では減少しますが下期275億円と高水準を維持すると見ており、通期で610億円の計画です。

また、売上高は585億円、営業利益は55億円、経常利益は57.5億円、当期純利益は40億円の計画です。

営業利益につきましては、販管費が前期比で増加いたしますが、増収および装置事業・受託試験サービスの原価率改善により、営業利益を拡大し、収益性を改善してまいります。

ROEにつきましては、8%を超える見通しです。

なお、受注残高は上期末時点で335億円となりました。



## 2023年度 投資計画

(百万円)

	2022年度	2023年度	2023年度			
	通期 実績	通期 期初予想	上期 実績	業績予想( 期初から修正なし)		
				下期	通期	前期比
設備投資額	1,311	3,100	1,300	1,800	3,100	+136.5%
減価償却費	1,328	1,480	715	765	1,480	+11.4%
研究開発費	1,041	1,490	619	871	1,490	+43.1%

設備投資額、減価償却費、研究開発費の計画はご覧の通りです。

## 環境認識

■ 受注は上期の勢いは落ち着くが、日本を中心にEV・バッテリーなど先端技術分野の需要は継続

装置事業	環境試験器	日本 :EV・バッテリーの投資が好調を維持、IoT関連の投資は一服感があるが堅調に推移 中国 :EV・バッテリーの投資は堅調だが、半導体関連は減少 下期は上期並みの受注を予想 ASEAN :EV・バッテリー、半導体関連が堅調 北米 :航空機、自動車関連が堅調だが、景気減速を懸念 欧州 :景気減速により投資抑制傾向が継続
	エネルギーデバイス装置	国内を中心に充放電試験用チャンバーが好調
	半導体関連装置	メモリ関連の投資抑制により前期を下回る見込み
サービス事業	アフター・エンジン 受託試験・レンタル	アフター・エンジン :前期と同水準になると予想 受託試験 :車載用バッテリーの試験需要が拡大
その他事業	環境保全 植物育成装置	大型案件が少なく前期を下回る見込み

こちらは現在のセグメントごとの環境認識です。

受注については、日本を中心にEV・バッテリーなど先端技術分野の需要は継続すると考えております。

環境試験器については、日本ではEV・バッテリーの投資が好調を維持、IoT関連の投資は一服感がありますが堅調に推移すると見ております。中国については、EV・バッテリーの投資は堅調ですが、半導体関連は減少しており、下期は上期並みの受注になると予想しております。ASEANは、EV・バッテリー、半導体関連が堅調と見ております。北米は、航空機、自動車関連が堅調ですが、下期以降の景気減速を懸念しております。欧州につきましては、投資抑制傾向が継続すると見ております。

エネルギーデバイス装置につきましては、国内を中心に充放電試験用チャンバーが好調と見ております。

半導体関連装置は、メモリ関連の投資抑制により、前期を下回る見込みです。

サービス事業につきましては、車載用バッテリーの受託試験需要が引き続き拡大すると見ております。

## セグメント別の業績予想

		2022年度	2023年度	上期実績	2023年度 (百万円)		
		通期実績	通期期初予想		業績予想(10/27修正)		
					下期	通期	前期比
装置事業	受注高	51,446	45,500	29,198	23,561	52,760	+2.6%
	売上高	45,031	47,700	23,533	26,817	50,350	+11.8%
	営業利益	3,919	4,670	2,175	2,804	4,980	+27.0%
サービス事業	受注高	6,963	7,000	3,785	3,554	7,340	+5.4%
	売上高	6,788	6,900	3,445	3,805	7,250	+6.8%
	営業利益	428	300	249	301	550	+28.5%
その他事業	受注高	1,469	1,800	655	644	1,300	△11.6%
	売上高	1,404	1,700	475	824	1,300	△7.4%
	営業利益	16	30	△88	58	△30	-
連結消去	受注高	△359	△300	△199	△200	△400	-
	売上高	△330	△300	△197	△202	△400	-
	営業利益	1	0	△2	2	△0	-
計	受注高	59,521	54,000	33,440	27,559	61,000	+2.5%
	売上高	52,892	56,000	27,257	31,243	58,500	+10.6%
	営業利益	4,366	5,000	2,333	3,166	5,500	+26.0%

ESPEC CORP.

18

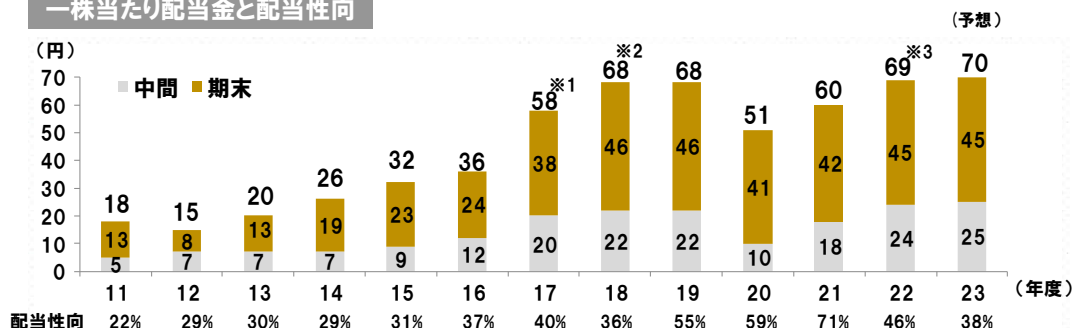
こちらはセグメント別の業績予想です。

期初予想に対しては、その他事業は下方修正しておりますが、装置事業およびサービス事業は、受注高・売上高・営業利益をそれぞれご覧の通り、見直しております。

# 2023年度 配当予想

## ■ 2023年度配当予想は変更なし、配当性向は38.2%となる見込み

一株当たり配当金と配当性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算。12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

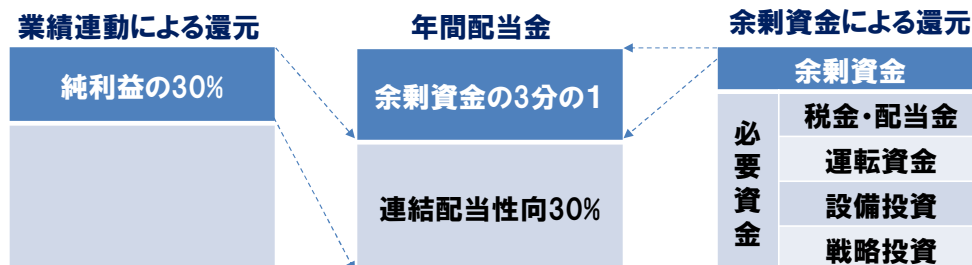
※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

配当につきましては、当期純利益を上方修正いたしましたが、投資を予定しているため、配当予想は変更しておりません。

これにより、配当性向は38%となる見込みです。

# 配当基本方針

継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本とする  
配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に上乗せする  
また、必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する



※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

配当方針につきましては、ご覧の通りです。

## 2023年度 主な取り組み

### 装置事業

- ・収益力の向上、製品納期正常化および受注残高の早期解消
- ・グローバルに拡大するバッテリー市場への対応強化

### サービス事業

アフターサービス:「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大  
受託試験 :自動車を中心とする先端技術分野向け試験サービスの拡充

### エリア戦略

日本:EV・自動化、IoT分野のニーズに適合した製品投入による販売拡大、買替需要の喚起  
北米:インフレ抑制法(IRA)による自動車市場の需要拡大への対応  
中国:グループ連携によるEV、IoT市場への販売拡大  
欧州:製品ラインアップ拡充による自動車およびIoT市場の開拓  
韓国:グローバル大企業への販売拡大

2023年度の取り組みといたしましては、装置事業においては、今期、エスプレック製品およびサービスの価格改定を行いました。今期業績への貢献は限定的ではございますが、納期正常化および受注残高の消化とあわせて取り組むことで、収益力の向上を図ってまいります。

また、エネルギーデバイス装置の受注拡大に対応するため、充放電試験用チャンバーの生産ラインの整備を進めております。これにより、生産能力の拡充と製品リードタイムの改善を図ってまいります。

サービス事業につきましては、バッテリー向け受託試験サービスの拡充として、宇都宮のバッテリー安全認証センターの試験設備を拡充しております。

エリア戦略につきましてもご覧の通りの内容で推進してまいります。

## 2023年度 ESGの主な取り組み

### ■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022~2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:低GWP冷媒への置き換え  
製造など事業活動におけるCO<sub>2</sub>排出量削減
- ・生物多様性保全活動:エスペックミックの事業による貢献  
「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進
- ・2030年度温室効果ガス排出量削減目標SBT認定(2023年7月取得)

### ■S(社会)

- ・人的資本の強化:管理職のマネジメント力強化、人事評価制度・教育制度、  
1on1の実施、次世代幹部育成
- ・ダイバーシティの推進:女性管理職の育成、シニア社員・外国人の活躍推進

### ■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化および内部統制システムの整備・強化

ESGの取り組みにつきましてはご覧の通りです。

Eにあたる環境につきましては、2023年7月に、当社グループの2030年度温室効果ガス排出量削減目標がSBT認定を取得いたしました。

また、林野庁「法人の森林制度」を活用した「エスペック50年の森」づくりにおいて、11月18日、2度目の植樹祭を実施いたしました。

Sにあたる社会につきましては、社員と役員が直接対話する機会の設定や、合宿形式の研修会の再開などにより、社内のコミュニケーション活性化を図っております。

## TOPICS 1

### バッテリー安全認証センター 受託試験設備を拡充

- ・2023年10月、バッテリーの充放電試験ニーズに対応するため、充放電試験用設備を拡充
- ・EV向け受託試験サービス強化を目指し、2024年にかけてさらなる増強を予定



バッテリー安全認証センター  
(宇都宮テクノコンプレックス内)

### 半導体検査装置 高発熱負荷対応 「バーンインチャンバー」拡充

- ・2023年3月、 $-20^{\circ}\text{C}$ ~ $+150^{\circ}\text{C}$ において許容発熱量を4倍(当社従来装置比)に拡大したバーンインチャンバーを拡充
- ・半導体が高発熱状態でも精密に温度制御可能
- ・検査量を大幅に増加、検査時間短縮に貢献



高発熱負荷対応「バーンインチャンバー」

TOPICSとしましては、2023年10月、バッテリーの充放電試験ニーズに対応するため、バッテリー安全認証センターの試験設備を拡充いたしました。

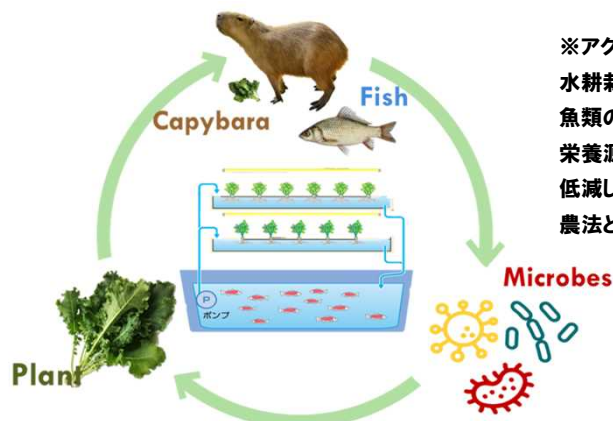
2023年3月には、半導体が高発熱状態でも精密に温度制御を行う検査装置「バーンインチャンバー」を拡充いたしました。



## TOPICS 2

### エスペックミック 川崎水族館（カワスイ）にて アクアポニックスを活用した共同研究を開始

2023年6月、エスペックミックが川崎水族館(カワスイ)、日本大学生物資源科学部 熱帯資源作物研究室と、アクアポニックスを活用した物質循環システムの実証実験に関する共同研究を開始



※アクアポニックスとは  
水耕栽培と陸上養殖を掛け合わせたシステム。  
魚類の糞尿を微生物分解させ、野菜生育に必要な  
栄養源として活用。化学肥料を使用しない、または  
低減した野菜生産が可能。近年、環境に配慮した  
農法として注目が高まっている。

「アクアポニックスを活用した物質循環システム」イメージ図

その他事業に関連するところでは、  
2023年6月に、川崎水族館および日本大学と、アクアポニックスを活用した  
循環型システムの共同研究を開始いたしました。

## 社外からの評価

### ■2023年

- 11月・日本経済新聞社「第5回日経SDGs経営調査」3.5つ星
  - ・日本経済新聞社「第7回日経スマートワーク経営調査」3つ星
- 10月・日刊工業新聞社（経産省後援）「第19回企業力ランキング」157位
- 8月・ブロードバンドセキュリティ「Gomez ESGサイトランキング2023」  
2年連続優秀企業に選定
- 6月・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ  
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に初選定
- 3月・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」  
最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に初選定
- 2月・東洋経済新報社「2023年版CSR企業ランキング」372位

NIKKEI  
**Smart Work**  
☆☆☆ 2024



### ■2022年

- 12月・CDP気候変動レポート2022において3年連続「Bスコア」
  - ・日興アイ・アール「2022年度全上場企業ホームページ充実度  
ランキング」2年連続最優秀サイト
  - ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2022」  
銅賞（業種別24位）

### ■ESG指数組入れ

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年4月初選定）



FTSE Blossom  
Japan Sector  
Relative Index

こちらが最後のスライドですが、当社をご覧のような評価を社外より  
いただいております。

このような評価を、社内の改善・改革に活かしてまいります。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。  
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、  
当社が計画・予測したものであります。  
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは  
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは  
ございません。

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川

IR・広報グループ 大川・貝川

以上をもちまして、私からのご説明を終わらせていただきます。  
ご清聴ありがとうございました。

Quality is more than a word

ESPEC